

(家庭数配布)



平和週間の取り組みをしています。



上の写真は戦時中の学校での体育の授業風景です。当時は国をあげて戦争に向かっていましたので、体育とは言っても、武器を持って相手を倒す訓練が主なものになっていました。子どもたちには、戦争を讃嘆し、敵国の人間の命をいかに奪うか、また、日本の勝利のためには自らの命を犠牲にすることが美化されるという誤った思想が植え付けられようとしていました。

日本では、終戦から間もなく 80 年を経過しようとしています。今の日本は本当に平和です。しかし、連日の報道にもあるように、まだまだ紛争を繰り返している地域もあります。「日本は平和なんだからそれでいい。」という問題ではありません。

先日、6年生は平和学習を目的として広島へ修学旅行に行きましたが、そこで学んだことを全校児童に広めるために、朝の時間に平和集会（オンライン）を行いました。平和記念公園でのセレモニーの様子を伝えるとともに、全校児童へ向けて、「戦争の恐ろしさ 平和の大切さ」を訴えました。私も、教室で一緒にその映像を観ていましたが、子どもたちはみな真剣に6年生からのメッセージを受け止めていました。

このような地道な取り組みが、日本の平和がずっと続くこと、そしていつの日か世界中の人がひとつになることに結びついていけばと思います。また、子どもたちに対しては、人間としての命をいただいていることを当たり前だと捉えず、感謝の気持ちを持ち、「今、自分にできること」に一生懸命に取り組んでいってくれることを願います。

◇校長のつづやきコーナー 「なぜ、子どもは勉強をしたがらないのか？」

大抵の子どもは、勉強はあまり好きではありません。なぜでしょう？私はこう考えています。人間は数百万年の時間をかけて進化してきました。その間、人間は食糧が十分に得られない、いわゆる飢餓との戦いでした。もし飢餓状態にあったとしても生命は維持しなければなりません。そこで人間はできるだけエネルギーを消耗しないように、次のような術を身につけました。身体の各器官の中でも特に大量のエネルギーを必要とする脳を働かせない（考えないようにする）という能力です。よって、「子どもが勉強をしたがらない」というのは、人間がその長い進化の過程で身につけた、いわゆる「本能」とも言えます。

人間の歴史をざっと 200 万年とすると、その間に何世代が繰り返された（親⇒子）のでしょうか？ 1 世代 20 年として 10 万世代、25 年で 8 万世代、30 年としても 6 万世代以上となります。人間が、今のように潤沢に食糧を得ることができるようになったのは、せいぜい 2～3 世代くらい前からです。飢餓状態から飽食の時代に移行し、省エネの必要がなくなったとは言え、何万世代もかけて獲得してきた「できるだけ脳を使わないようにして、生命を維持する」という能力が、たった 2～3 世代くらいで消失するはずがないのです。

ここまで述べると、「校長は子どもが勉強したくないことを認めるのか？」と思われるかもしれませんが、しかし、ここからが私の本論です。人間には「理性」があります。「理性」は、多くの生物の中で唯一人間しか持たない能力です。この「理性」を本能に勝たせればよいのです。「今、勉強しておかなければ、将来、どうなるのか？」、こう考えるのが「理性」です。生物の一種としての本能は変えようがありませんが、それに負けない「理性」をいかに働かせるかにかかっているのです。

緑地小の子どもたち、自分の明るい未来のために頑張りましょう！

(おまけ)

先日の土曜参観後の人権学習講座にアクセスする QR コード、URL をお知らせします。都合で参加できなかった、オンラインを見逃してしまったという方は、こちらをご覧ください。（約 47 分間の動画となっております。）



https://toyonakaeducmy.sharepoint.com/:v:/g/personal/ryokuchi_edu_toyonaka-osa_ed_jp/Eet8HKY3h9tJjjsYCq4HzbUB-f-OJCvnn5ECFJLfxOligg